

# 日本語学習者(留学生)の聴解

中 野 琴 代

## 目 次

1. はじめに
2. 日本語授業に関するアンケート
  - 2-1 学部1年生
  - 2-2 短期留学生(特別聴講学生・科目等履修生)
  - 2-3 学部2年生
  - 2-4 留学生から日本語の授業に望むこと
  - 2-5 まとめ
3. 留学生の聴解テスト
  - 3-1 聴解テストの概要
  - 3-2 聴解の誤用例及び語彙・漢字とのつながり  
一語句レベルで①～⑩
  - 3-3 聴解の誤用例及び語彙・漢字・文法と関連して  
一文単位で⑪～⑰
4. 聴解の難点とストラテジー
5. おわりに

## 1. はじめに

留学生の日本語教育の聴解授業を担当して15年になろうとしている。学部留学生1・2年対象のクラスは「大学の講義を聞き、理解する力、及び意見を発表する等の口頭表現力の修得」を、短期留学生の聴解クラスは「コミュニケーション能力、コミュニケーションスキルの獲得。その中で「聞く」力の育成」をそれぞれ目標として授業を行っている。留学生の聴解授業と一口に言っても、学生の力には様々なレベル、個人差があり、均一ではない。また、外国語(日本語)の聞き取りに型にはまったやり方は無い。これは日本人でも同様だが、こうすれば必ず聴解力が伸び、100%完全な理解ができるという「魔法の鍵」は無いのである。しかし、外国語の聴解において学習者特有の弱点、母語の干渉等による誤りの傾向が存在することは確かであり、それを知り、対策を講じることによって彼らの聴解能力のレベルアップ、ひいては日本語能力向上への貢献が可能となる。

このような目的を持って、筆者は今年度(2009年度)春学期初めに学部1・2年生と短期留学生(特別聴講学生・科目等履修生)を対象に聴解アンケートを行った。さらに同学期最後の授業で同じ学生を対象に聴解テストを実施した。アンケートからは、留学生が日本語授業に対して自分から発信する技能、とりわけ聴解授業には「聴く」練習と連携した口頭表現練習を希望しているという結果が出た。また聴解テストでは、聞き取りには音声を正確に聴く力以外に、語彙、文法の要素、また様々なストラテジーも働かせていることがわかった。内容が高度に、専門性が高くなればなるほどその分野に関わる語彙等の知識、また漢字の力が大きく関わることも明らかになっている。

今後、留学生自身が自分の聴解についてどのような問題があるのかを知り、それにどのように対応するのかを考え、自身の日本語能力をより改善していく、その一助となることを願っている。

## 2. 日本語授業に関するアンケート

このアンケートは日本語の授業全般についてであり、聴解授業のみを対象としたものではない。実施時期は2009年度春学期最初の授業—学部1年生と短期留学生は日本語A、学部2年生は日本語Eのクラス—で行った。簡単な説明の後、30分程度で記入させ、その場で回収した。アンケートは論文最後<資料①>を参照。

### 2-1. 学部1年生

アンケート回答は13人(女性5人)である。年齢は30代前半～20代前半にかけて、20代前半が9人である。これまでの日本語学習時間は、1年、1年半、4年、6年、7年が各1人、2年3人、3年が5人である。学部生のほとんどは日本語学校で1

表 1. 「なぜ日本語を勉強するのか (複数回答可)」

	学部 1 年	短期	学部 2 年
大学での勉強に必要だから	5	1	6
日本の文化・社会に関心があるから	8	12	3
日本語または日本語の勉強が好きだから	4	8	4
きちんとした日本語を使えるようになりたいから	11	8	6
卒業後、大学院に進みたいから	3	1	3
将来、日本で就職または母国の日本関連企業で就職したいから	11	9	10
日本人のように自然な日本語が話せるようになりたいから	11	11	4

その他

- ・母国在住の日本人と交流するため (1人 短期)
- ・ドラマとかアニメについて興味がある (1人 短期)
- ・礼儀正しさ (1人 短期)
- ・自国のことを日本人に教えたいから (1人 短期)

表 2. 「現在の自分の日本語能力についてどう思うか」 (複数回答可)

	学部 1 年	短期	学部 2 年
A. 日常生活で			
「読む」「書く」「聞く」「話す」の全ての面で満足	1	1	1
いずれかの面で不足している力 : 「読む」	3 <sup>*1</sup>	3	1
: 「書く」	6	4	4
: 「聞く」	5	7 <sup>*2</sup>	1
: 「話す」	10 <sup>*3</sup>	7	8 <sup>*4</sup>
B. 大学での勉学で			
「読む」「書く」「聞く」「話す」の全ての面で満足	0	0	1
いずれかの面で不足している力 : 「読む」	5	5	1
: 「書く」	8	7	6
: 「聞く」	7 <sup>*5</sup>	8	2 <sup>*6</sup>
: 「話す」	6	8	5

\* 1 : 不足している力として「漢字」(1人) をあげたものを含む。

\* 2 : 同じく「日常用品の名前に慣れていない」(1人) としたものを含む。

\* 3 : 同じく「発音」(1人) と書いたものを含む。

\* 4 : 同じく「敬語」(2人) と書いたものを含む。

\* 5 : 同じく「メモを取る」(1人) と書いたものを含む。

\* 6 : 同じく「講義の内容」(1人) と書いたものを含む。

～2年日本語を勉強した後に入學してくるが、朝鮮族の学生の中には、民族学校で中学から日本語を第一外国語として学び、日本語学習時間が長いケースがある。卒業後の進路希望は、就職8人、大学院進学4人、未定1人である。

日本語を勉強する理由については以下の表1 (学部1年生、短期留学生、学部2年生に分ける。以下の表2. 3. 4も同様)。

学部1年生では「きちんとした日本語」「自然な日本語」といった日本語能力の向上が、また就職も大きな動機となっている。

次に、現在の自分の日本語能力について問うた(表2)。

日常生活で用いられる日本語の中で「読む」には

学生の半分以上が自信を持っているようである。しかし、同じ文字に関わる技能でも「書く」力、また音声の「聞く」、「話す」(特に日常生活で) 力には不足を感じている学生が多い。ここから「書く」「話す」という自分からの発信、また、文字のように前に戻って確かめることのできない、一過性の音声に関わる領域に問題を抱えていることが見て取れる。

日本語の授業の中で、どのような技能練習を望んでいるかについては表3を参照。

「聴解」「会話練習」「意見発表」の音声関連技能を半数以上の学生があげ、また「書く」練習、「語彙」にも関心が高い。漢字圏出身の学習者が大半を占めるためか、「読解」「漢字」をあげた学生はやや少ない。

表3. 「どのような技能練習をしたいか」(複数回答可)

	学部1年	短期	学部2年
読解	3	5	1
聴解	7	8	3
文法	5	6	3
発音練習	6	5	4
会話練習	11	9	8
漢字	4	4	3
語彙	7	8	5
意見発表	10	9	3
ディスカッション	6	3	5
「書く」練習	12	9	5

その他

- ・日本人の話す習慣(1人 学部1年)
- ・日本の新聞の討論(1人 学部1年)
- ・翻訳についての知識(1人 短期)

表4. 「取り上げてほしいテーマ」

	学部1年	短期	学部2年
政治	3	3	1
法律	2	2	2
言語	4	5	3
経済	11	6	9
環境	7	4	5
人間	6	6	0
文化	6	8	3
少子高齢化	1	7	0
歴史	6	6	0
国際社会	10	6	4
情報化社会	10	3	7

その他

- ・漫画・アニメ(2人 学部1年・短期)
- ・文学(1人 学部1年)
- ・スポーツ(1人 学部1年)
- ・女性の社会進出(1人 短期)
- ・宗教(1人 短期)

授業の中で取り上げてほしいテーマや内容については表4に示す。

「経済」が最も多く、現代社会の問題である「環境」「国際社会」「情報化」にも関心が高い。その他に「人間」「文化」「歴史」にも興味が集まっている。

## 2-2. 短期留学生

短期留学生(特別聴講学生・科目等履修生)は12人(女性8人)である。年齢は20代前半～後半で、大半が前半である。出身は中国7人、韓国2人、トルコ、オーストラリア、タイ各1人。日本語学習歴は1年、1年半、4年、5年、8年が各1人、2年

4人、2年半が2人である。朝鮮族出身者、青島大学日本語学科学生等は学習時間が長い。卒業後の進路希望は「大学院あるいは日系企業」とした1人を含めて全員が就職希望であり、日本語教師、日本企業へのサービス提供の仕事等、日本関連を目指す者が多い。

日本語を勉強する理由では、全員が「日本の文化・社会への関心」をあげ、次いで「自然な日本語」「日本関連の就職」「日本語の勉強が好き」「きちんとした日本語」と語学への興味や語学を活かした将来とつながっている(表1参照)。

自分の日本語能力については、日常生活、勉学の両面で、「読む」「書く」より「聞く」「話す」の不足をあげた者が多くなり、音声関連の占める比重がやや大きくなっている(表2参照)。

「どのような技能練習をしたいか」では、「会話練習」「意見発表」「書く」練習が最も多く、自分からの発信能力の重視が、また次点の「聴解」と合わせてどちらかという音声関連技能を重視する傾向があるようだ(表3参照)。

授業の中で取り上げてほしいテーマとしては、短期留学生の場合、リストにあげた項目にほぼ平均して関心があることを示しており、その他にも「漫画・アニメ」、「女性の社会進出」、「宗教」等幅広く関心があるようだ(表4参照)。

## 2-3. 学部2年生

アンケート回答は10人(女性4人)。全員が中国出身(吉林、遼寧、山東、安徽、福建省等)である。年齢は20代前半6人、後半4人であり、日本語学習時間は2年と4年が各1人、2年半2人、3年が6人である。卒業後の進路は1人の大学院志望以外の全員が就職を希望している。

日本語を勉強する理由としては、就職希望者全員が「将来の日本関連の就職」をあげ、その他には「大学での勉強に必要」「きちんとした日本語を使う」等、実践面を重視していることがわかる(表1参照)。

自分の日本語能力についても「読む」「聞く」という、どちらかという受け手の立場の技能より「書く」「話す」といった自分から発信する力の不足をあげており、学部1年や短期留学生と同様、これらの技能・能力の必要性、需要が高いということが

感じられる(表2参照)。それに対応して自分のしたい技能練習として「会話練習」がトップで、次いで「語彙」「ディスカッション」「書く」練習と、やはり自分表現の技能重視が窺われる(表3参照)。

「取り上げてほしいテーマ」では、ほとんどの学生が「経済」をあげ、その他「情報化社会」「環境」等現代社会の趨勢に沿った問題があがり、対照的に「人間」「少子高齢化」「歴史」はゼロとなっている(表4参照)。

#### 2-4. 留学生から日本語の授業に望むこと

最後に、その他に日本語の授業に望むことを尋ねたところ、以下のようなコメントが集計された。

- もっと多くの会話の練習をしたい(学部1年—2人 短期—1人)
- 日本人のように話せるようになりたい(学部1年、短期—各1人)
- グループを作ってテーマについて意見発表した(学部1年—2人)
- 敬語の使い方(学部1年、短期—各1人)
- レポートの書き方(学部1年—1人)
- ゼミとかディスカッションの形態の授業(短期—1人)
- 学生の日本語能力で分けて勉強したらよいのではないか(能力が違くと授業がスムーズに進まないかもしれない。(短期—1人)
- 書くのが苦手なので漢字・語彙の勉強をしたい(学部2年—1人)
- 日本の日常生活・常識をもっと知りたい(学部2年—1人)

ここでも「話す」「書く」を中心とした授業が期待されていることが見て取れる。

#### 2-5. 日本語授業に関するアンケートのまとめ

学部1年生と短期留学生は、入学後の間もない時期にアンケートが行われたことも影響したのか、日本文化・社会への関心が大きいですが、学部2年生では卒業後の将来を見据えた実践的取り組みに関心が集まっているようだ。

自分の能力の不足については、学部1・2年と短期留学生の全員が「書く」(特に勉強面で)、「話す」(日常面で)という自分からの発信に関わる力をあ

げており、アカデミックな「書く」、正確で自然な日本語を「話す」練習の需要を強く感じる。「聞く」力に関しては学部1年と短期留学生は力不足を感じている者が多いが、2年生ではその数は減少している。入学後1年が経過し、大学の勉学に慣れてきた、または単位取得の実績を積み、自分の力でやっていける自信がついたのかもしれない。

### 3. 留学生の聴解テスト

このテストは2009年度春学期最後の授業—学部1年生と短期留学生は日本語A、学部2年生は日本語E、どちらのクラスもLL教室使用—で行った。対象となる学生は学部1年生14人、短期留学生11人、学部2年生10人の合計35人。出身別に見ると、韓国、トルコ、タイ、オーストラリアが各1人、31人が中国出身者である<sup>1)</sup>。

#### 3-1. 聴解テストの概要

テストのねらいは、留学生が日本語のニュースを聞き、それを聴き取る力、内容理解の程度を知ること、及び、聴き取り、内容の理解においてどのような誤りの傾向があるのかを知ることである。

ニュースは1分40秒程度(総文節数113)の長さで、内容は企業合併についての、やや経済関連のものである(〈資料②〉参照)。ニュース構成は、〈リード文〉〈問題の背景〉〈詳細説明・まとめ〉で、リード文に5箇所、背景部分に3箇所、詳細部分に9箇所の合計17箇所のディクテーションを指定した。テストのやり方は、ニュースを視聴し(ビデオ1回)、その後各自で聞きたいところを繰り返し聞きながら(LL機器使用)、指定部分のディクテーションを行い(2通り)、最後に全体のまとめ(120~150字)を付けるというものである。

ディクテーションは、ひらがな、またはカタカナで書くもの(1)と、漢字かな混じり文で書くもの(2)の二通りを書くよう指示し、どちらから書き始めても良いとした。これは、ひらがな・カタカナ表記のもの(1)によって音声の聴き取り状況を調べ、漢字かな混じり文(2)によって聴き取ったものが内容理解にどのようにつながっているかを知ること、をねらいとしたものである。ひらがな・カタカナの長音表記はできるだけ「ー」を使用するように<sup>2)</sup>、漢字かな混じり

文では漢字の使用も評価に含めることを伝えた<sup>3)</sup>。辞書(電子辞書を含む)は使用可とし、テストの結果は授業の成績評価には含めないことを伝え、本来の実力で受けるよう配慮した。時間は全部で70分。説明を除いた実質テスト時間は50分であった。

### 3-2. 聴解の誤用例及び語彙・漢字との関連

#### 一 語句レベルで①~⑪

最初に発音の誤用例をあげ、次いで語彙・漢字について述べる。

誤聴例は、紙幅の制限も有り、数の多いものを取り上げ、全てを網羅していない。そのため用例数が全員分35例に達していない場合もある。

#### ① ビール<sup>サイオーテ</sup>最大手

「ビール」は長音を含む外来語、「最大手」は「最」と「大手」とが結合した漢語で、[sai]に連母音があり、[o:te]の長音に続く発音である。

「ビール」は問題が無い。が、「サイオーテ」では、ひらがな表記ではあるが「さいおおて」としたのは7例のみである。誤聴例として「さいようて」(8例)、「さいようてん」「さいようてい」(各7例)、その他「さいよてん」「さいよて」「さいゆうてん」(各1例)と、合計25例が、母音[i]と後続の[o]を融合させ、硬口蓋接近音の[jo]、[ju]と聴いている。また語末音「テ」に撥音「ン」を付け「てん」と聴いたもの(11例)、母音「イ」を挿入、「てい」としたもの(7例)がいた。この語句は格助詞「の」が後続しており、その鼻音性が撥音または母音の挿入につながった可能性がある。

この結果、漢字表記では、正答「最大手」は6人のみ、その他は「採用定」「採用店」(各4例)、「採用手」(3例)「採用低」「最優店」「採用点」「最要点」「最要手」(各2例)と表記している。またひらがな表記のままの者もいる。

#### ② 三位<sup>サンイ</sup>

発音は /saNi/ (摩擦子音+母音+撥音+母音)。日本語母語話者には簡単に思えるが、日本語学習者にとって特殊拍の撥音「ン」は中々厄介な発音である。発音は、ひらがな表記「さんい」(16人)、カタカナ表記「サンイ」(2人)が合わせて18例である。誤聴例は、2拍目と3拍目を交換した「さい

ん」(4例)「サイン」(7例)、2拍目撥音「ン」が聴き取れていない「さい」(1例)「サイ」(4例)があった。

漢字表記では、「三位」としたのは16例で、必ずしも発音が意味とつながっていない。聴き取り、表記とも「さいん」「サイン」(10例)としたものは「署名」の意味に理解したようだ。発音を「さい」「サイ」としたものは「差異」(1例)を除き漢字に転換していない。

#### ③ 年内の合意<sup>ネンナイノゴーイオメザス</sup>を目指す

「ネンナイ」は /neNnai/、鼻音音素が連続している。「ゴーイ」は長音を含む語である。

「ネンナイ」についてはひらがな、またはカタカナで発音を正答したものは28例と、まあまあであったが、「れんない」(1例)「ねんらい」(3例)「ねんだい」(2例)と、子音音素 /n, d, r/ の混乱、誤りが目立った。「ゴーイ」を「ごうい」としたものは24例、長音を短音に聴き「ごい」と書いたもの(6例)、また「ごよう」(2例)もあった。他では、「メザス」は全員、問題が無かったが、格助詞「を」を抜かしたものが2例あった。

漢字語彙にすると、「年内」としたものの28例は発音と一致している。「ねんらい」と聴いたものは「年来」と書き(2例)、「ねんだい」と聴いたものは「年代」としている(2例)。

また、聴き取りと漢字が一致した「合意」(24例)、「ゴイ」と短音に聴き取り、「五位」と書いたもの(4例)、「ごよう」と聴き「誤用」「御用」としたもの(各1例)、「合用」(1例)である。漢字に変換していないものもいる。

#### ④ 独占禁止法に抵触<sup>ドクセンキンシホーニテシヨクシナイカドコカ</sup>しないかどうか

清濁(無声音と有声音)の弁別は中国語母語話者、朝鮮語母語話者にとって困難なものの一つである。

「ドクセンキンシホー」の誤聴は、句頭の濁音(有声音)を清音(無声音)に聴いた「とくせん」1例、また後半を「きんしゅうほう」(1例)、「きんしょうほう」(1例)である。

「テシヨク」については、「ていしょう」(1例)、「たいしよく」(1例)、「たいしゅうつ」(1例)、「ていしゅうつ」(2例)「てんしよく」(1例)がある。「て」を「た」と聴く /e/ と /a/ の母音交

換、語末「ク」の音 /ku/ は、音環境によりほぼ無声化したためであろう、「つ」/tsu/または長音としたもの、また語の拍数は4拍と正しく捉えたが長音「ー」を撥音「ン」とした誤聴例等がある。

漢字表記ではビデオの字幕にも助けられたのか、正しく表記されたものが多い。しかし、「とくせん」と聴きながら「独占」とし、「どくせん」と発音を聞いても「特選」と書いたもの(各1例)があり、また「どくせんきんしゅほう」「どくせんきんしょうほう」としたものはどちらも「独占禁酒法」としている。

「抵触」は、「ていしゅつ」「たいしゅつ」と聴き「提出」としたもの(3例)、「たいしょく」と聴き「退職」、「てんしょく」と聴き「転職」としたもの(各1例)、「ていしょく」と聴いても「定職」(1例-非漢字圏)、「停職」、「提唱」と同音漢字語彙または近似する同音漢語を当てたもの(各2例)等、内容と結びついていないものも見られる。

#### ⑥ オ-キククコトナルトイワルルキギョ-フ-ドノユ-ゴ-大きく異なると言われる企業風土の融合

誤聴は後半に集中している。「キギョー」の「ギョー」(鼻濁音の拗長音)、「フード」(両唇摩擦音の長音「フー」と有声音「ド」)、「ユーゴー」(硬口蓋接近音「ユ」と鼻濁音「ゴ」の両長音)の三箇所である。

「キギョー」を「ききょう」としたもの(有声音を無声音に)、同じ鼻音であるが調音の異なる「きみょう」(/mjo/は両唇鼻音)、同じく「きにおう」(歯茎硬口蓋鼻音 /ni/ と母音 /o/)、拗音「ギョ」を清音の直音とした「きよう」が各1例、また「きんよう」「きんゆう」(撥音 /N/ と硬口蓋音 /jo/ または /ju/) も合わせて4例あった。

「フード」では、2拍目と3拍目が交換された「ふどう」としたものが5例、「ふうどう」(語末短音を長音に)、「ふうと」(語末有声音を無声音に)が各3例。「ユーゴー」では「ゆうご」(語末長音を短音に)が4例、「ゆうこう」(鼻濁音「ご」を無声音に)2例、その他「ゆうもう」「ようごう」「ゆごう」「いうも」(いずれも硬口蓋接近音 /ju/ の長音または鼻濁音「ゴ」の長音のどちらかが正しく聴き取れていない)が各1例あった。

漢字語彙に変換したものでは、「企業」を「きよう」と聴いたものは「起用」と、「きみょう」と聴

き「奇妙」に、「きんゆう」を「金融」と書いたものが各1例。しかし「きんよう」と発音を聴いたものは適切な漢字語彙が見つからなかったのであろう、ひらがな表記のままである。「風土」を「ふどう」の発音に聴いたものは「不動」、またカタカナ表記「フード」としたものが6例である。「融合」では、発音「ゆうこう」と聴き「友好」「有効」と漢字表記したもの(各1例)、また「ゆうごう」と聴きながら「有合」と漢字を当てたものも一例あった。句単位で見ると、「企業風土の融合」を「気に欧風等融合」「緊要不動の融合」とした、いずれも非漢字圏の例が見られた。

#### ⑦ コクナイシジョ-ガシユクショ-スル国内市場が縮小する

「シジョー」「シユクショー」とも歯茎硬口蓋摩擦音を子音とする拗長音が含まれる。

発音では、「シジョー」を「しじょ」と語末を短音に聴いたもの(2例)、「シユクショー」の語末長音を短音とし「しゅくしょ」としたもの(1例)、無声化した /ku/ としたと思われる「しゅくしょく」(1例)、及び「しょくしょう」(1例)がある。また「コクナイ」を「こくだい」と聴いたものも2例あった。

漢字語彙への変換では、「国内」を「こくだい」と聴き「国大」としたもの1例(もう1例は漢字変換していない)。「市場が縮小する」では中国人学生は全員が正しく漢字を当てている。発音で「シジョー」を「しじょ」、「シユクショウ」を「しゅくしょく」「しゅくしょ」と表記したものも中国人学生の場合、漢字かな混じり文では正しく漢字変換されていた。中国人学生にとって、「市場」「縮小」の両漢語は、発音はともかくとして使用語彙としては確実に定着しているようだ。非漢字圏では「市場が食傷する」(1例)、また漢字表記されないものもある。幾つかの語がまとまったもの(句単位)になると、助詞を間違えたり、抜かしてしまうものも増えてくる。この場合も、格助詞「が」を「の」に(3例)、「を」に(1例)したり、また抜かしたものの(2例)もいた。

#### ⑧ コクサイテキナキョ-ソ-リョクオタカメル国際的な競争力を高める

誤聴、誤用が最も少なかった用例である。「コクサイテキナ」の「テキ」、「テキナ」が抜けたものが

各1例、「キョウソウリョクヲ」を「きょうそうりょうこう」としたものの1例、格助詞「を」が抜けたもの3例である。

漢字かな混じり文にすると、学部1・2年生は、「競争力」を「ぎょうそうりょく」と表記した1人も含め、全員が正しく漢字変換している。しかし非漢字圏の学生では、画数の多い漢字をひらがなで表記したものの、「競争力」と格助詞「を」を融合させて「きょうそうりょうこう」と聴いてしまい「国際良好」としたものの、また「こくさいてき」と聴き取りながら「国内的」と漢字変換してしまったもの（各1例）があり、これらは漢字力の差が出てしまった結果と言ってよいであろう。

#### ⑧ リョーシャノケエト トップ ガンドースル 両社の経営トップが指導する

「両社」と「経営トップ」をつなぐ格助詞「の」を「ど」または「と」としたもの（各1例）、「トップ」を語頭有声音「ドップ」としたもの（2例）、促音を長音に「トープ」としたもの（1例）、「シドウスル」を「しゅどうする」としたもの（9例）、「しゅどする」（1例）の誤聴例がある。

漢字かな混じり文にすると、「指導」を発音「しゅどう」「しゅど」としたものの全員が「主導」の漢字を当て（10例）、また「しどう」と発音を聴いたものの内2人が「始動する」と漢字表記した。「トップ、ドップ、トープ」はいずれもカタカナで表記されている。

#### ⑨ リョーシャノモチカブガイシャガガッペイスルホーシキ 両社の持ち株会社が合併する方式

句頭の「リョーシャ」の発音の誤聴は無く、句末「ホーシキ」では「けいしき」と聴いたものが1例あった。

「持ち株」と「会社」の結合による連濁「モチカブガイシャ」を、連濁の無い「もちかぶ（しき）かいしゃ」または「もちかぶしゃ」としたものが合わせて9例。「ガッペイスル」では、「ごうべする」「がっぺする」「ごっぺいする」「がっぺんする」「がってする」「あがてする」としたもの（各1例）、無声子音の /pe/ を有声音 /be/ に「がっぺいする」としたもの（2例）、「ごうべんする」としたもの（3例）があった。また格助詞「が」が抜けたものも3例ある。

漢字かな混じり表記を見ると、「持ち株会社」に

ついては、「会社」を「社会」とした1例を除き、連濁の有無を問わず、ほぼ全員が「持ち株（式）会社」と漢字表記している。

「合併する」では、発音を正しく聴いたもののほとんど、「がっぺする」「ごっぺいする」「がっぺんする」としたもの（3例とも中国）が「合併する」と漢字で表記され、「がってする」は「（持ち株会社が）上がってする」（1例－非漢字圏）、「ごうべする」「ごうべんする」としたもの（各1例）は「合併する」を用いている。句末の「方式」を「ケイシキ」と聴いたものは「形式」としている（1例）。

#### ⑩ ユーリョクナセンタクシ 有力な選択肢

「ユーリョクナ」の発音を「ゆうりょうな」としたものが2例、「ゆうりな」としたものの1例、また形容動詞語尾「ナ」を「の」としたものが2例である。「センタクシ」では語末「シ」が無かったもの（6例）、「しき」としたもの（1例）、また「センタク」を「せんだく」と、撥音「ン」に続く「タ」（日本語では無声無気音）を有聲無気音「だ」としたものの（1例）の誤聴例がある。

漢字表記では、「有力な」を発音「ゆうりな」とし「有利な」と書いたものが1例、「ゆうりょくな」と発音を聴きながら「有益な」としたのも1例あった。しかし「ゆうりょうな」と発音を聴いたもの（2例）は漢字表記では「有力な」と漢字変換されていた（漢字圏）。「選択」は「せんだく」と発音を聴いたものも含め、全員が「選択」とし、「選択肢」を「選択支」としたもの（2例）、語末「肢」が発音で抜けていたものは漢字表記でも無く、「せんたくしき」と聴いたものは「選択式」（1例）としている。

#### ⑪ ハヤケレバネンナイノゴイー 早ければ年内の合意

「ハヤケレバ」では「はかければ」としたものの1例を除き全員が正しく聴き取っている。

「ネンナイノゴイー」は前述の下線部③と同じもので、やはり同様の誤りが起きている。下線部③で「ネンナイ」を「ねんらい」（3例）、「ねんだい」（2例）、「れんない」（1例）としたものは下線部⑩でも同様に聴いており、子音音素 /n/、/d/、/r/ の混乱、または1拍目と3拍目の子音音素の交換エ

ラーという誤りを繰り返している。長音を含む「ゴイー」については、二拍の「ごい」としたものの(4例)、「ごいよう」(1例)等がある。

漢字かな混じりにすると、「早ければ」を発音「はかければ」としたものは「測ければ」とし(1例)、「年内」では、発音「ねんらい」と聴き「年来」としたものの、また「ねんだい」と聴き「年代」としたものは下線部③の用例でも同様に表記している。「合意」を「五位」としたものの(4例)、「ご偉容」(1例-非漢字圏)、「合用」(1例)、ひらがな表記のままのものもある。

### 3-3. 聴解の誤用例及び語彙・漢字・文章構造と関連して一文単位で⑫～⑰

#### ⑫ <sup>ブンヤ ノ コクナイ シジョーノ</sup> <sup>ガ ア ワ セテ</sup> <sup>ゴジョウ</sup> ビール分野の国内市場のシェアが合わせて50% <sup>パーセント</sup> <sup>オ</sup> <sup>コ</sup> <sup>エ</sup> <sup>ル</sup> を超える

誤聴は外来語「シェア」に集中している。「50%」は数字表記でも可としたため、ほとんどのものがそのままの表記である。

「シェア」を「しあん」としたものの5例、「シャア」1例、「シューア」1例、「しゃ」7例、「しゃ」1例、また空白(聞き取れない?)も1例あった。また「コエル」を「こうる」「こうりゅう」(各1例-いずれも非漢字圏)、「50%」を「ごじゅうパーセント」としたものの(4例)である。主語の格助詞「が」は全員が表記しているが、対象の格助詞「を」を抜かしたものが6例ある。

漢字かな混じり文に変換すると、外来語のカタカナ表記「シェア」をひらがな「しえあ」、または、そのままカタカナ表記したものが合わせて17例、カタカナ「シャア」「シューア」としたものの(各1例)、発音「しあん」とし「試案」と表記(5例)、「しゃ」と聴き「視野」としたものの(8例)、発音「しゃ」から「社」と表記したものの(1例-非漢字圏)である。非漢字圏の学生は漢字変換がうまく行われていない。英語母語話者の学生(1人)は「しあん」と聴き、「試案」の漢字を当てている。

#### ⑬ <sup>ドクセンキンシホーニ</sup> <sup>テショク</sup> <sup>ス</sup> <sup>ル</sup> <sup>ト</sup> <sup>ハンダンサレタ</sup> 独占禁止法に抵触すると判断された

「ドクセンキンシホーニ/テショク」の部分は下線部④と重複している。誤聴も同様に起きているが、一部訂正されたものもある。

発音「ドクセン」を「とくせん」と聴いたもの(1例)、「キンシホー」を「きんしほほう」としたものの(1例)、「テショク」を「ていしょう」「たいしょく」「たいしゅつ」「ていしょく」「てんしょく」としたものの(各1例)、また「～トハンダンサレタ」を「はんだいされた」「ひだんされた」としたものの(各1例)がある。助詞では「と」の無いもの(2例)、「と」を「を」としたものの(1例)があった。

漢字かな混じり文では、「独占」を「とくせん」と聴き「独占」としたものの、逆に「どくせん」と聴き「特選」と漢字を当てたものは用例④でも同様の誤りをしていた。「禁止法」を「禁酒法」としたものは1例で、同じ聴き間違いは用例④より1人減っている。

「抵触」を、漢字表記「定職」(1例)、「停職」(2例)としたものは用例④でも同様の漢字表記をしている。「ていしょく」と聴きながらも「提唱」としたものの(1例)、「ていしょう」と聴き「提出」と表記したもの(1例)も同様である。「抵触」を「たいしょく」と聞き「退職」としたものの(1例)、「たいしゅつ」から「退出」としたものの(1例)、「てんしょく」から「転職」としたものの(1例)も用例④と同様である。一方、用例④では「ていしゅつ」としていたが、発音「ていしょく」とし「抵触」と修正したものも2例ある。

また「判断された」を発音「ひだんされた」と聴いたものは「批断された」の漢字を当てている「はんだいされた」(非漢字圏学生)は漢字表記されていない。

#### ⑭ <sup>ナンラカノ</sup> <sup>タイオオ</sup> <sup>セマラレル</sup> 何らかの対応を迫られる

発音では、「ナンラカノ」を「なんだかの」としたものが10例、「なんからの」「らんなかの」「らんだかの」「らんらかの」「だんらかの」が各1例あった。「な」「ら」「か」に共通する母音/a/、及び子音調音点を同じくする/n/、/d/、/r/の混乱、1拍目と3拍目の交換エラーである。「タイオオ」では「たいようを」と、/i/と/o/を融合させて硬口蓋接近音/jo/の「よ」と聴いたものが12例、同じく硬口蓋接近音で中舌母音の「たいゅう」、さらに語末長音を短音に「たいよ」としたものが1例あった。動詞受身形「セマラレル」では「せわられる」



(3例)、「せめられる」(2例)、「せわれる」「せまれる」「せばれる」「さわられる」(各1例)が見られる。いずれも有声音の、両唇が閉鎖または接近する /m/、/w/、/b/ の混乱、拍の交換エラーと、母音では /a/ と /e/ の交換が原因となる聴き間違いである。

漢字かな混じり文にすると、「何らかの」は「何らか」「なんらか」のどちらもあるが、誤聴例には、ふさわしい漢字が思い当たらなかったであろう、漢字は当てられていない。「対応を」を「たいよう」と聴いた例では、「態様」(2例)、「体様」「対よう」「大要」「対揚」(各1例)、また語頭無声音「タ」を有音「だ」と聴き「代用」としたもの(1例)、発音「たいよ」に「貸与」を当てたもの(1例)があった。

「迫られる」を「せめられる」と聴いたもの(2例)は「責められる」「攻められる」とし、その他に、音表記「せまれる」を「狭られる」「せばれる」を「狭める」と表記したもの(各1例)、「世話られる」(2例)も見られた。

<sup>ガ ザイバツケーノ キギョー</sup> <sup>デ カブシキオ ジョージョー</sup>  
⑮ キリンが財閥系の企業グループで株式を上場  
しているの

前半「キリンガ／ザイバツケーノ／キギョーグループデ」を分解して見ていく。「ザイバツケーノ」を「ザイバツケ」としたもの(1例)、助詞「ノ」を「ど」と聴いたもの(2例)、「と」としたもの(1例)があった。「キギョー」では、「ぎよう」「きんよう」各1例と、前述の用例⑤と比べると誤聴が減っているものの、誤りをそのまま引きずっているものもある。「グループ」は「ぐるっぶ」(長音を促音に聴いたもの)、「グループ」(長音拍の位置のズレ各1例)、「グルプ」(長音を短音に聴いたもの-2例)と、特殊拍に関する典型的な聴き間違いが見られる。

後半「カブシキオ／ジョージョーシテイル／ノ」では、「ジョージョー」を「じょうしょう」(4例)、「しょうじょう」(1例)、「じょじょ」(2例)、「じょうしょ」(1例)としたもの、また句末の形式名詞「ノ」の無い用例(9例)があった。

漢字かな混じり文で見ると、「財閥系の」を「財閥型の」「財閥形の」「財閥軽度」としたもの(各1例)、「企業グループ」の「グループ」をカタカナ表

記「グルプ」「グループ」「グルッブ」とした(各1例)がある。「上場している」では、発音「じょうじょう」と聴き「上場」と正しく表記したものが11例、その他に「上々」(4例)、「上上」(2例)、「上乘」(3例)がある。また前述の、発音「じょうしょう」「しょうじょう」と聴いたものに加えて、「じょうじょう」と発音を表記しながらも「上昇」と表記したものが合計9例あった。「徐徐」(2例)「徐々」(1例)は発音「じょじょ」と「じょうじょう」としたもののから漢字変換されており、また非漢字圏学生では漢字変換していないものもある。

<sup>ソーギョーケ ガオカブヌシデ ジョージョー モンテイナイ</sup>  
⑯ 創業家が株主で上場もしていない

「創業家：ソーギョーケ」は、語彙として一般的とは言い難く、留学生にとってもなじみの無い語と思われる。ビデオの字幕から、または前後関係の脈絡からある程度は推測されるのではと期待していたが、発音、漢字変換の両方が正確にできた学生はいなかった。「大株主」「上場」は前述の用例⑮からの既出語彙である。

「ソーギョーケガ」の発音を「ソーギョーケイガ」としたものは、助詞「ガ」を「は」としたものを含めて21例、「ソーギョーケンガ」としたものの4例、そのほか「そうぎょけ」「そうぎょけい」「そうじょうけい」「そうごうけい」が各1例で、「そうぎょけが」としたのは1例のみ(非漢字圏学生)であった。「オーカブヌシデ」は大半が「おおかぶぬしで」としたが、「ぬ」と「の」の交換した「おおかぶのし」3例、「おおかぶしきぬし」も3例あった。

「ジョージョーモンテイナイ」については、ひらがな表記「じょうじょうもしていない」が18例、誤聴例としては、「じょじょもしていない」(2例)、「じょうしょうもしていない」(4例)、「じょうじょもしていない」「しょうじょうもしていない」「じょうじょうのもしない」(各1例)、助詞「も」が無い「じょうじょうしていない」(3例)、「じょうじょう(を)しない」(2例)「じょうじょうをしていないこと」「じょしょうしない」(各1例)であった。

これらを漢字かな混じり文にすると、「創業家が」を「創業系が」(14例)、その他「創業形」「操業型」「操業形」(各1例)、「総業系」(2例)、「総

業けい」と「総業計」(各1例)、発音を「そうぎょうけん」としたものでは「創業券」「操業権」(各2例)、その他に「創業権」「そうぎょう権」「総合形」(各1例)があった。「大株主で」では「多株主」としたものが3例あったが、大半は正しい表記をしていた。

「上場もしていない」については、1人修正した者を除き、漢字変換を行った者は全員が用例⑮と同じ漢字語彙を使用していた。「上場」としたものが12例、「上々」(4例)、「上上」(2例)、「上昇」の漢字表記にしたもの(9例—発音では「じょうじょう」としたものを含む)、「上乘」(3例)、「徐徐」(2例)である。例外では、用例⑮では「徐徐」としながら下線部⑯で発音を「じょしょう」とし漢字表記を「上昇」としたものが1例あった。

キギョーフードガオーキクコトナリ ソシキノユーゴーフムズカシーノデハナイカトユーシテキ  
 ⑰ 企業風土が大きく異なり、組織の融合は難しい  
ノデハナイカトユーシテキ  
のではないかという指摘

「企業風土が大きく異なり」と「融合」は用例⑤で既出している。発音を見る。

前半「キギョーフードガ／オーキク／コトナリ」の「キギョーフードガ」では、「きぎょうふうど(またはフード)」としたもの(19例)、それ以外に「フード」を「ふうど」としたもの(5例)、「フート」としたもの(2例)、「ふうどう」「ふうとう」「ふど」(各1例)がある。「オーキクコトナリ」では「おおきくことなり」としたものが23例、その他「おおきくことない」「おおきくなり」「おおきくことなることになり」が各1例ある。

後半「ソシキノユーゴーフムズカシーノデハナイカトユーシテキ」の「ソシキノユーゴーフ」では、「そしきのゆうごうは」が8例、格助詞「は」を「が」にした「そしきのゆうごうが」(9例)、格助詞が無いもの(1例)、その他に「ユーゴーフ」の語末長音を短音とした「ゆうご」(6例)、無声音「ゆうこう」としたもの(2例)、また「ゆもう」「ゆうも」(各1例)がある。「ムズカシーノデハナイカトユー」では「むずかしいのではないかという」としたもの(17例)、副助詞「の」の無い「むずかしいではないか」(2例)、「という」が無いもの(8例)である。最後の「シテキ」まで書いたものは20例であった。

漢字かな混じり文変換では、前半「企業風土が大

きく異なり」と正確に漢字表記したものは20例、その内訳は、学部1年と短期—各6例、学部2年—8例と、学部2年生の比率が高い。一部の聞き間違い—「風土」を「不動」に、一部抜け落ちたもの—「企業風土が大きく(異)なり」、語彙の誤用「風土」を「フード」としたもの、「異なり」を「事なり」等の誤りは、学部2年より1年生、短期留学生に多くなっている。非漢字圏の学生では漢字かな混じり文に変換していないものが目立つ。

後半「組織の融合は難しいのではないかという」の漢字かな混じり表記でも、学部1年7例、短期8例、学部2年8例と、1年生より短期、2年生のほうが正答率が良くなる。ただし、助詞に関する誤り—格助詞「は」と「が」の混用、助詞「の」の無いもの—は学部1・2年、短期を問わず散見される現象である。また「融合」を「ゆうこう」と聴いたものは用例⑤と同様に「有効」「友好」が表記に用いられていた。最後の「指摘」まで漢字表記できたものは、学部1年3例、短期8例、学部2年—4例である。この「指摘」を「意見」とした1例もある(学部1年)。

#### 4. 聴解の難点とストラテジー

まず、これまでの内容から聴解の問題点をまとめる。その後に聴解のストラテジーについて考察する。

##### □ 発音

外国語の学習、特に音声面では母語の音韻体系に無い音声(音素、表現等)は修得が難しいとされる。被験者のほとんどが中国語母語話者であるため、誤聴の傾向も中国語母語話者が中心となる。今回の聴解で問題の原因となったものをあげる。

##### A. 母音に関して

- /a/と/e/、/u/と/o/の聞き間違い(用例④⑫⑬)
- 母音の無声化(用例④⑬)
- 母音/i/、/e/、/o/の連続による硬口蓋化の発生—拗音⇔直音(用例①④⑤⑧⑫⑬⑭⑮⑰)
- 母音の長短の弁別(用例③⑤⑥⑧⑩⑪⑮⑯⑰)

##### B. 子音に関して

- 有声(無気)音と無声(無気または有気)音の聴き間違い(用例④⑤⑥⑧⑨⑩⑭⑮⑯⑰)
- 調音点を同じくする/d/、/n/、/r/ (「ダ」行、「ナ」

行、「ラ」行音)の混乱(用例③⑥⑪⑭)

- ・ガ行鼻濁音に関するもの(用例⑤⑥⑨⑫⑰)
- ・特殊拍(撥音、促音)の聴き間違い及びモーラ感覚(用例①②⑤⑥⑧⑨⑫⑬⑮⑯⑰)

### C. その他

- ・音声素性(母音、子音、モーラ)の交換エラーや融合<sup>4)</sup>(用例②③⑦⑪⑭)

まず母音について。日本語の母音は発音に力のかからない平易なものとされるが、弁別となるとまぎらわしく困難な場合がある。前舌の/a/(低)/e/(中)/i/(高)のうち、中位置の/e/は音環境によって/a/とも/i/とも間違われやすく、発音も難しい音である。また/i/と/e/は音環境(母音の後続)により拗音に聞き間違われることが多い。中国語には日本語の拗音と似ている介音というものがあるが、中国語の介音/i-/は前後を声母(子音)や韻母(主母音)に挟まれていても発音は明確であり、音の聞こえ度も高い。中国語母語話者からすると日本語の/i/や/e/は弱く聞こえ、存在感が薄く感じられるため、後に母音が続く場合、口蓋化して拗音に聞こえるのかもしれない。

母音の無声化、及び他の外国語には少ない長音「ー」、促音「ッ」、撥音「ン」は、それぞれの調音、音価を正確に理解し、また発音と聴き取り共に拍感覚を身につけることが重要となる。正確な拍感覚が身につけていないと、音があるべきところで抜ける、反対に無いところで挿入してしまうという失敗が起きてしまう。

子音では、有声音と無声音の混乱が目立つ。中国語では有気音と無気音の対立はあるが、日本語の濁音と清音という有声子音と無声子音の対立は無い。初級者では、日本語無声音を中国語有気音で、日本語有声音を中国語無気音で対応させる者が多いが、これが固定、化石化すると日本語の正確な発音ができなくなってしまう。今回のテストでも「融合：ユーゴー」(用例⑤⑰)を「ゆうこう」と聴き「有効」「友好」としたものの、「(株式の)上場：ジョージョー」(⑮⑯)を「しょうじょう」「じょうしょう」と聴いてしまう等、内容理解への影響も深刻となる。調音点を同じくする/d,/n/,/r/の混乱、ガ行鼻濁音等は中国でも南方出身者に比較的多いようだが、やはり調音と音価を正確に理解し、修得す

ることが弁別への有効な手段となる。

音声素性の交換エラーや融合は日本人でも無意識に行っているものだが、正確な発音と共に正確な語彙知識を持つことが重要となる。

### □漢字・語彙

冗談には有るが、中国語母語話者は「漢字で聴く」と言われる。対照的に非漢字圏母語話者(英語等)は「文脈で聴く」とも言われる<sup>5)</sup>。今回のテストでも、指定のディクテーションを始めるに当たって、半数以上の中国人学生は漢字かな表記から書き始めていた。中国語母語話者が漢字の力に助けられていることは見逃せない事実である。読み書きでは発音を知らなくても漢字の助けで内容を理解し、伝達することができる。今回のテストでも最初のビデオでの映像と字幕の視聴によってニュースの大まかな内容、語彙等を掴み、発音は聞き取れなくても(聴き間違えても)漢字表記では正しく書けていた学生が多い。対照的に、非漢字圏の学生では、発音を正しく聴き取りながら正しく漢字変換できなかったり間違った漢字を当ててしまったものが多い。また日本語では内容が高度に、専門性が高くなればなるほど漢字語彙の使用が増えるので、語彙力の増強に於ける漢字の役割は非常に大切である。

しかし漢字を同源としても必ずしもプラスばかりではない。日本漢字には音読みと訓読みがあり、訓読みでは送り仮名も重要である。日本漢字音の発音が正しく覚えられていないと、漢語語彙の正確な発音、ひいては語彙力がつかず、発話「話す」はもちろん「聞く」「書く」でも内容が劣ることになり、日本語力は上がらない。また漢字と一口に言っても日本と中国で、同形同義語、同形異義語、和製漢語があり、漢字圏出身者は非漢字圏出身より母語の干渉(マイナス転移)を受けやすいとも言え、語彙力の向上をはかるには日本語と中国語の違いを踏まえた漢字の正確な知識が必要となる。

### □文法

全体として助詞が抜ける例が漢字圏、非漢字圏とも多く見られた。主題を示す格助詞「は」、主語の格助詞「が」、対象を表わす格助詞「を」、その他に「の」(格助詞、副助詞とも)「に」「と」「も」等、全般に脱落が見られる。日本語文では動詞は原則として文末に来るものであり、全体の文意は最後まで聞かないとわからない。しかし初めのあたりで出現

する名詞等に付加する助詞によって、これからどのように展開していくのか、文意の推測が可能になり、大局的な理解を助けているのである。文中で、漢語は自立語にはよく使用されるが、最終的な文意の決定には助詞、助動詞、動詞の役割が大きく、これらの存在は必須であり重要である。これらは高度な聴解を行うには不可欠であることを認識しておいてほしい。

それ以外では、形式名詞「の」、形容動詞語尾「国際的な」「有力な」、漢語+する動詞の「判断された」「という」等の脱落はどちらかという中国人学生に多いようだ。

#### □ストラテジー

木村(1969)では独話を理解する能力として以下のものをあげている<sup>6)</sup>。

- (1)話を聞きながら、文脈を急速に把握する能力
- (2)話の中の未知の語句の意味を補って理解する能力
- (3)話の段落ごとに要旨をまとめる能力
- (4)話を聞きながら、必要な事項を記憶したり、メモに取ったりする能力

そしてこのような聴解能力を開発する前提として基礎的聞き方能力の養成が必要であるとする。

また水田(1995)では、独話聞き取りのストラテジーを取り上げ<sup>7)</sup>、日本語母語話者と日本語学習者のよく用いるストラテジーを比較している。その中で日本語母語話者が、差はあれ平均して聞き取りに必要なストラテジー全般を使いこなしているのに対し、日本語学習者では、「問題特定」と「推測」ストラテジーに半数以上が占められ、その他も限られたストラテジーに集中することから、日本語学習者には「聞き取り過程で生じた問題処理にエネルギーを費やしている学習者の聞き取り過程が推察される」としている。

日頃の聴解授業において、「問題特定」に集中しすぎ、一言一句を聞き逃すまいとするあまり注意力が続かなくなってしまう学生や、または途中で未知の処理できない語彙・表現に至った途端(既知語彙でも文脈で処理できない、または誤って解釈されることも)、そこから先に進めなくなってしまうケース等、ほんの一部が全体に影響してしまうことが多く見られる。

わかることとわからないこと、大事なことかどうかを判断しながら、時には「聞き流す」または記憶

の中に「保留」する(メモを取ることも可)という作業ができること、その上で、全体の意味や流れ、キーワードを把握し、重要部分に注意を集中させて聞くことが必要である。

その前提として語彙力および漢字力の増強、正確な文法力を身につけておかなければならない。単に知っている、見たことがある語イコール使用語彙とはならない。知っていても正確に使えなくては本当の語彙力とは言えない。基幹となる語が使用語彙となって初めて派生語、未知語彙への推測が可能となる。正確な漢字・漢語力も言うまでもないが、現代日本語においては外来語の比重も大きくなりつつある。また文法項目も重要である。一つ一つの音、語は聞き取れても、それが正確に繋がらなくては全体の内容理解に至らない。

また予備知識のストックを着実に増やしておくことも重要である。現代社会の抱える問題を常に意識し、問題の場面、関連語彙、固有名詞等の知識を蓄えておくことが、聴解内容の予測に、また分からない部分の推測に、さらに問題の確認、精緻化へと、正確な聴解に大いに役立ってくれるのである。

他にも論理的な独話には、中心となる重要部分は一回だけではなく、語彙や表現を変え、繰り返されること、また話し方も周囲より「ゆっくりと大きく明瞭に」話されるという特徴があり、このようなことも聴き取りの助けとなる。漫然と聞いていて聞き逃すのでは困るが、集中力をコントロールしながら総合的に大局的な聴き方ができることが重要である。

## 5. おわりに

「大学の講義を聴き、理解する」というのは「独話の理解」ということであり、会話のように一対一で聞き手と話し手が相対して交互にやりとりする対話とは異なる難しさがある<sup>8)</sup>。対話では普通、相手の反応を見て顔の表情、しぐさ等の視覚的情報に助けられながら話を進めていくことができるが、独話では視覚的情報が皆無のこともあり、一方的に流れてくる、しかも瞬時に消えてしまう音声聞き、判断していかなければならないのである。それは、音声の聴き取りから語の判別、語と語のつながりから句、文、段落単位の聴き取り、内容理解へと一

連の作業を瞬時にこなしていかなければならないということである。そのためには日本語の総合的な力を伸ばし、聴解の助けとなるものを努力して身につけておかなければならない。

(注)

- 1) 学部1年(韓国1人、中国13人、中国引揚者等子女1人)の韓国入学生が欠席、短期留学生(中国7人、韓国2人、タイ、オーストラリア、トルコ各1人)の韓国入学生が欠席した。学部2年生(10人)は全員、中国である。
- 2) 長音表記。長音をどのように聞いているか、正確に知るために「ー」表記を使用させたかったが、カタカナ不慣れな学生が多く、「ー」表記を強制すると混乱が生じる恐れがあったため、ひらがな文字表記「えい」「おう」等、カタカナ表記「エー」「オー」等のどちらの表記でも良しとした。実際は、ほとんどの学生がひらがな表記で書き、長音の聴解については100%の正確な結果が得られたとは言いがたい。
- 3) 漢字かな混じり文。漢字の使用については非漢字圏出身の学生は困難であれば使わなくてもよいとしたが、漢字圏の学生には、通常の漢字使用語彙に使用していない場合はマイナス評価とするとした。
- 4) 窪蘭晴夫(1999)『現代言語学入門2 日本語の音声』(岩波書店) P94~105、P163~176 参照
- 5) 松本順子(2002) 下記参照
- 6) 木村宗男(1969 下記参照) から引用させていただいた。
- 7) 水田澄子(1995 下記参照) では、ストラテジーを「新しい情報を学習したり保持したり、あいまいな情報を理解するために活性化された心理過程」と定義し、その明確な特徴を「それらが意識的なもの、あるいは意識化可能なものであること、理解や学習、保持を強化するためのものであること」としている。また独話聞き取りのストラテジーとして以下のものをあげている。
 

・注意のコントロール	・自己モニター	
・テキスト構造の認知	・イメージ	
・言い換え	・問題特定	・推測
・保留	・聞き流し	・確認
・情報化	・内容へのコメント	
・話し方へのコメント		
- 8) 木村宗男(1969) 前掲書参照

参考文献

- ・木村宗男(1969)「日本語教育における問題点 聴解指導をめぐる」『講座 日本語教育』第5分冊(早稲田大学語学教育研究所)
- ・今田滋子(1974)「進んだ段階における話し言葉の指

- 導一上級の聴解指導の問題点(1)一」『日本語教育』23号(日本語教育学会)
- ・芦沢節(1975)「動いている日本語」の教育について」『日本語教育』28号(日本語教育学会)
- ・石田敏子・仲野桂子(1980)「漢字の難易度 その統計による判断と経験による判断」『日本語教育』42号(日本語教育学会)
- ・小林典子・フォード順子(1992)「文法項目の音声聴取に関する実証的研究」『日本語教育』78号(日本語教育学会)
- ・助川泰彦(1993)「母語別に見た発音の傾向—アンケート調査の結果から—」『文部省重点領域研究 日本語音声と日本語教育<D1班>—外国人を対象とする日本語教育における音声教育の方策に関する研究—平成4年度研究成果報告書』
- ・福岡昌子(1995)「北京語・上海語を母語とする日本語学習者の有声・無声破裂音の横断的および縦断的修得研究」『日本語教育』87号(日本語教育学会)
- ・水田澄子(1995)「日本語母語話者と日本語学習者(中国人)に見られる独話聞き取りのストラテジー」『日本語教育』87号(日本語教育学会)
- ・小河原義朗(1997)「発音矯正場面における学習者の発音と聞き取りの関係について」『日本語教育』92号(日本語教育学会)
- ・田中真一(1998)「フット内における母音のきこえと複合語アクセント」『音声研究』第2巻第1号(日本音声学会)
- ・窪蘭晴夫(1999)『現代言語学入門2 日本語の音声』(岩波書店)
- ・金庭久美子・川村よし子(1999)「TVニュース構成の特徴分析とそれを支える表現」『日本語教育学会』101号(日本語教育学会)
- ・山本富美子(2000)「中国人日本語学習者の有声・無声破裂音と聴解力の修得研究—北方方言話者に対する聴取テストの結果より—」『日本語教育』104号(日本語教育学会)
- ・劉秋燕(2000)「台語母語話者に見られる日本語歯茎音/d, n, r/の聴取傾向」『日本語教育』107号(日本語教育学会)
- ・山下直子(2000)「外国人留学生の講義理解—理解に影響を与える要因とストラテジーに関する意識調査から—」『日本語教育』107号(日本語教育学会)
- ・小林尚美・李友娟(2001)「韓国語母語話者の聴解行動における漢語の役割—聴解・漢字・発音クラスの枠を超えた指導法への提言—」『2001年度日本語教育学会秋季大会予稿集』
- ・尹松(2002)「パターン学習は理解を促進させるか—ラジオニュースの聴解の場合—」『日本語教育』112号(日本語教育学会)
- ・松本順子(2002)「日本語学習者の漢字理解に文脈支

- 持が与える影響－英語母語話者の場合－』『日本語教育』115号（日本語教育学会）
- 邱學瑾（2003）「台湾人日本語学習者の日本語漢字熟語の音韻処理について－単語タイプ・単語の修得年齢・習熟度の観点からの検討－」『日本語教育』116号（日本語教育学会）
  - 鹿島央（2003）「外国人学習者の日本語文節音の修得」『音声研究』第7巻第2号（日本音声学会）
  - 戸田貴子（2003）「外国人学習者の日本語特殊拍の修得」『音声研究』第7巻第2号（日本音声学会）
  - 鄭聖美（2004）「脱漢字化しつつある韓国人学習者の漢語習得ストラテジー－日韓両言語の漢字音の相関関係に気づいたストラテジーを中心に－」『2004年度 日本語教育学会春季大会予稿集』
  - 邊姫京（2004）「日本在住の韓国人日本語学習者における母音の無声化」『日本語教育』122号（日本語教育学会）
  - 三國純子・小森和子・近藤安月子（2005）「聴解における語彙知識の量的側面が内容理解に及ぼす影響－読解との比較から－」『日本語教育』125号（日本語教育学会）
  - 加藤稔人（2005）「中国語母語話者による日本語の漢語修得－他言語話者との修得過程の違い－」『日本語教育』125号（日本語教育学会）
  - 高山知明（2005）「拗音に見る非対称性」『音声研究』第9巻第1号（日本音声学会）
  - 栗原通世（2006）「中国語北方方言を母語とする日本語学習者による母音長の制御と長短の感覚」『音声研究』第10巻第2号（日本音声学会）
  - 邱兪援（2007）「台湾人日本語学習者における日本語単語の聴覚的認知－同根語・非同根語・ひらがな単語・カタカナ単語の比較－」『日本語教育』132号（日本語教育学会）
  - 酒井弘他（2009）「アメリカと中国における日本語学習者の読解力・聴解力の構成要因」『2009年度日本語教育学会春季大会予稿集』
  - 蔡鳳香・松見法男（2009）「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程－同根語と非同根語を用いた言語間プライミング法による検討」『二音後教育』141号（日本語教育学会）
  - 土岐哲・江崎哲也・岡田祥平（2009）「『非母語話者による日本語話し言葉コーパス』の可能性」『日本語教育』142号（日本語教育学会）
  - 江原寛尚・今泉敏（2009）「音読と語彙判断に及ぼす仮名・漢字表記の効果」『2009年度 日本音声学会全国大会予稿集』
  - 江田早苗・内藤由香・平野絵理香（2009）「学習者によるイントネーション知覚と意味理解のストラテジー」『日本語教育』143号（日本語教育学会）

<資料①>

アンケート

これは日本語の勉強についてのアンケートです。みなさんが今、日本語の勉強について考えていること、感じていることを教えてください。正しい答というものはありません。またこのアンケートの内容は成績に全く影響しません。

□あなたの身分、生年、出身地、日本語の学習歴などを教えてください。

• 学生： 学部留学生（4年） 短期留学生（1年）

• 生年： \_\_\_\_\_年

• 出身地： \_\_\_\_\_

• 性別： 男性 女性

• 日本語の学習歴： \_\_\_\_\_

• 卒業後の進路（希望）： \_\_\_\_\_

□なぜ日本語を勉強するのですか？ 該当する項目に○を付けてください。

（複数回答可）

• 大学での勉強に必要なだから。

• 日本の文化・社会に関心があるから。

• 日本語、または日本語の勉強が好きだから。

• きちんとした日本語を使えるようになりたいから。

• 卒業後、大学院に進みたいから。

• 将来、日本で就職、または母国の日本関連企業で就職したいから。

• 日本人のように自然な日本語が話せるようになりたいから。

• その他（ \_\_\_\_\_ ）

□あなたは、現在の自分の日本語能力についてどう思いますか？

A. 日常生活で

• 「読む」「書く」「聞く」「話す」の全ての面で満足している。

• 「読む」「書く」「聞く」「話す」のいずれか、またはいくつかの面で不足している。

不足している力（ \_\_\_\_\_ ）

B. 大学での勉学で

• 「読む」「書く」「聞く」「話す」の全ての面で満足している。

• 「読む」「書く」「聞く」「話す」のいずれか、またはいくつかの面で不足している。

不足している力（ \_\_\_\_\_ ）

□あなたは、日本語の授業の中でどのような技能の練習をしたいですか？（複数回答可）

• 読解

• 聴解

- 文法 ぶんぽう
- 発音練習 はつおんれんしゅう
- 会話練習 かいわれんしゅう
- 漢字 かんじ
- 語彙 ごい
- 意見の発表 いけんはっぴょう
- ディスカッション
- 作文「書く」練習 さくぶんかかれんしゅう
- その他 ( )

授業の中で取り上げてほしい、関心のあるテーマや内容がありますか？ (複数回答可)

- |                                |                                   |                                   |
|--------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| • 政治 <small>せいじ</small>        | • 法律 <small>ほうりつ</small>          | • 言語 <small>げんご</small>           |
| • 経済 <small>けいぎ</small>        | • 環境 <small>かんきょう</small>         | • 人間 <small>にんげん</small>          |
| • 文化 <small>ぶんか</small>        | • 少子化の問題 <small>しょうしかもんだい</small> | • 高齢化の問題 <small>こうれいかもんだい</small> |
| • 歴史の問題 <small>れきしもんたい</small> | • 国際社会 <small>こくさいしゃかい</small>    | • 情報化社会 <small>じょうほうかしゃかい</small> |
| • その他 ( ) <small>ほか</small>    |                                   |                                   |

そのほかに、日本語の授業に望むと、期待することがあれば書いてください。



<資料②>

□キリン・サントリー <sup>とうごうじつげん かだい</sup> 統合実現に課題も

<sup>けいえいとうごう きょうぎ</sup> 経営統合を協議していることが明らかになった、①ビール最大手のキリン・ホールディングスと②三位のサントリー・ホールディングスは、③年内の合意を目指す方針ですが、④独占禁止法に抵触しないかどうか、<sup>こうせいとりひき いんかい ちょうせい</sup> 公正取引委員会との調整や、⑤大きく異なると言われる企業風土の融合等、<sup>とうごう</sup> 統合の実現には課題も残されています。

キリン・ホールディングスとサントリー・ホールディングスは、⑥国内市場が縮小する中、⑦国際的な競争力を高めるため、⑧両社の経営トップが指導する形で経営統合の協議を進めていることが明らかになりました。

<sup>かんけいしゅ</sup> 関係者によりますと、⑨両社の持ち株会社が合併する方式が⑩有力な選択肢として検討されており、⑪早ければ年内の合意を目指しています。

<sup>りやうしゅ</sup> 両社は、⑫ビール分野の国内市場のシェアが合わせて50%を超えるため、<sup>ちか こうせいとりひき いんかい</sup> 近く公正取引委員会と調整に入るものと見られますが、⑬独占禁止法に抵触すると判断された場合、⑭何らかの対応を迫られる可能性があります。

また⑮キリンが財閥系の企業グループで株式を上場しているのに対して、サントリーは⑯創業家が<sup>け おおかぶぬし じやうじやう</sup> 大株主で上場もしていないことから、⑰企業風土が大きく異なり、<sup>そしき ゆうごう わずか</sup> 組織の融合は難しいのではないかと、<sup>してき で とうごう じつげん かいけつ かだい のこ</sup> 指摘も出ており、統合の実現には解決すべき課題も残されています。